

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
創刊号

昭和55年10月25日発行

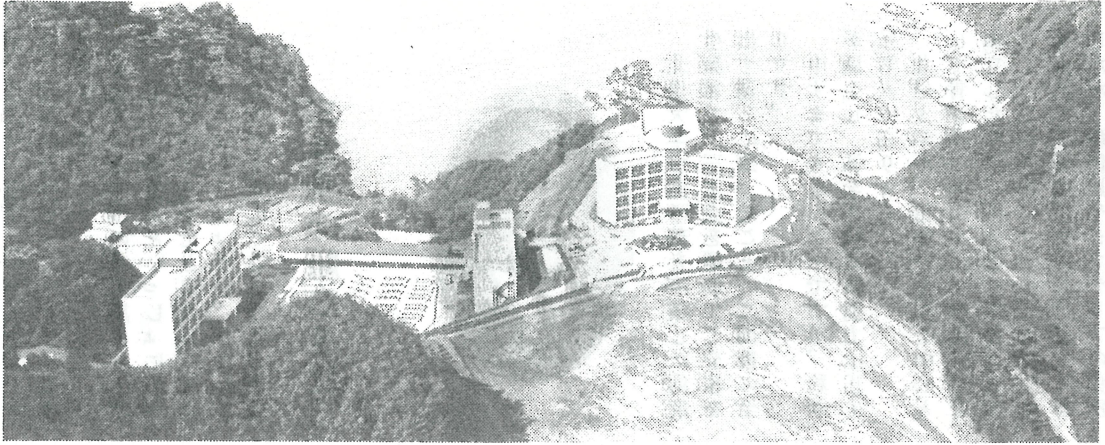
編集者 田代茂年

発行 北里大学水産学部同窓会

(連絡先)

〒150 東京都渋谷区恵比寿3-39-2(長屋)

振替口座 第一勧業銀行大手町支店 008-1182388



「三水会」発足に想う

水産学部同窓会(三水会) 会長 長屋信博



案等が承認され、名称も「三水会」と決定し、水産学部同窓会は正式に発足しました。

この三水会発足にあたり、私は、その今後について思うこと、そして、同窓生の皆様をお願いしたいことが三つほどあります。

一つは、この会が同窓生の皆さん全員が利用でき、そして参加できるようなものになりたいという事です。形だけの同窓会、ごく一部の会員のためのものであつては意味がないと思います。この目的を第一に考え、組織作り、事業展開を図ってまいり考えですが、これには会員の方々からの意見、要望等が寄せられ、それを集約して会の運営がなされるのが最良のものと思います。身近の代議員、役員を通じどしどし、ご意見、ご要望をお寄せください。

二つめは、人と人との繋がりを大切にしたという事です。これについては、在学生との繋がりも考えます。私達の中には就職を決める時に焦りと同時に大学から提供していただいたものの以外の「生」の情報の少なさに苛立ちをおぼえた人も多いいと思います。

早いもので、一期生が三陸の学窓を巣立ってからもう五年という歳月が過ぎようとしています。
そして、結婚、出産といったうれしいニュースもあちこちから聞かれるこのごろです。
この間、二期、三期と卒業生は巣立ち、今年三月には五期生が卒業し卒業生総数も七百名を超えました。
これら卒業生は、流通、食品、薬品また研究機関等様々な分野で活躍され、しだいに仕事における責任も重くなつてきていることと思います。
このようななかで、一昨年ごろから水産学部同窓会設立を要望する声も強まり、全学同窓会並びに大学の先生方のご支援を受けながら、昨年来学部同窓会設立の準備を進めてまいり、今年の五月三十一日に設立総会を開催するに至りました。この総会において、規約、事業計画、予算

この会ではこのような在学生の何らかの力になりたいと考え、去る七月に各分野の同窓生三人にお願いして三陸にいったもらい、就職ガイダンスを行いました。好評を得たので、来年以降も続けようことですので、来年以降も続けよう充実して行きたいと考えています。

私は経験はその人の財産であると思います。そして一人じめしていてもったいないのではないかと思います。在学生のためにも、又既に就職した人においても壁にぶつかっている人もいます。是非、これらの人達に経験という財産をもって力を貸してあげてください。

既にいくつかの職域等での集まりが出来ていると聞いています。築地の流通関係の集まりにおいては仕事の上でも協力しあっていると聞いています。就職して間もない頃は気がつかないと思いますが、一年、二年たち自分の仕事が出来ようになつた時に、人との繋がりの大切さがわかってくるのではないのでしょうか。この会はこのような小さな人の集まりの輪が大きくふくらんだ所にあり、その仲介役としての役割を大切にしたいと考えています。

最後もお願いになりますが、三水会はまだ形だけが出来上がったという状態です。今後この会を盛り上げて行くには会員全員の協力が必要で

す。代議員、役員といった世話人だけでは到底今後やって行けなくなると思います。

私達は水産学部の草創期に共に学び、そして先生方といっしょになって学部を作ったと自負してもよいのではないのでしょうか。どうかあの時の気持ちをそして力を今度は同窓

三水会の船出を祝う



北里大学水産学部を卒業した同窓生諸君が、三水会を編成して会報を出す運びに到ったこと、ご同慶の至りです。

申すまでもないことですが、私学が誕生し、私学が興る原動力は正に私学人に在ります。

北里大学が、椿精一先生を中心として青森県十和田市に、畜産学部を創立したのは、昭和四一年のことでした。周知の如く北里柴三郎先生は、破傷風の免疫血清療法を開発されましたが、破傷風やジフテリアの免疫

会作りに借してください。そして、皆までこの会を作り上げ、そして盛り上げていっていただきたいと思えます。

最後にこの紙面を借り、本会設立にお力添えをいただいた大学、全学同窓会の方々、並びに代議員各位に厚くお礼申しあげます。

学長 長 木 大 三

血清の製造は、北里研究所のお家芸となっております。しかし終戦直後、これらの血清をつくるための馬の飼育が、人の食料すら不足する東京周辺では至難となったため、昭和二十二年東北の馬所の青森県三本木（現在十和田市）へ北里研究所の支所が設置されました。吹雪で板塀が揺れる木造建ての施設で頑張りながら椿先生をはじめとする北研陣営の人々は血清製造に精励したのでした。

敗戦で疲弊しきっていた祖国も、国民各位の辛酸努力の甲斐あって次第に回復して参りました。北里研究所では東京に近い千葉県下の柏市に家畜衛生研究所を開き大動物の免疫もここで行う態勢となり、三本木支所は閉鎖する意向でした。しかし県当局としては切角進出して来た北里が、大学も開学したことではあり、

もし出来ることなら畜産学部を設置して頂けないかとの申し出がありました。かくて椿先生を中心とする畜産学部づくりが始まりました。四一年にスタートした同窓部は、現在六年制の獣医畜産学部となり、修士、博士課程を持つ大学院も備えております。

青森県が畜産なら岩手県には水産をと要望されたのが、千田正県知事でした。その斡旋で入手したのが越喜来半島のキャンパスです。学部発足に先立って海洋生物研究所（現在三陸研修所）がPPAのご厚意によって建てられました。

昭和四七年開学した水産学部は、椿担当理事の下で、土屋、松浦両学部長の熱心なご指導を得て生々発展し、これ又修士、博士課程を有する大学院大学となりました。

このように獣医畜産と水産の両学部は、終始担当理事の責めに任じて来られた椿精一先生の情熱ご努力の結晶として誕生し発展しつつあるのです。

卒業生諸君に私は訴えたい。北里は私学です。私学に学び私学を卒えた諸君は私学人としての責任感と誇りを堅持してほしい。

北里柴三郎先生が創立した北里研究所の五〇周年記念として我が北里大学が創設されましたが、そこには

北里先生の学統を継ぎ、北里精神を伝承する若き俊英が陸続として輩出して欲しいという北里人の願望があったのです。研究者として、教育者として、また医政家としても常に狂瀾怒濤に敢然と立ち向いパイオニアとして成功の彼岸に達した北里先

三水会に望むこと

水産学部長 太田 静行

職のシーズンになると、そういう会社から

「今年もまた来年三月の卒業生を一人よこしてくれませんか」

三陸の水産学部も、新しい、新しいと思っっているうちに、卒業生を既に五回も送り出し、来年あたりは十周年を迎えることになる。こうして卒業した諸君のことを私は時々今どうしているだろうか考える。元気で仕事をしているだろうか、遅刻などしないだろうか、上役とけんかなどをしないだろうか、難しい仕事にぶつかってへこたれていないだろうか、考え出すといろいろ心配なことがある。幸い、卒業生諸君の就職先からの電話や書信によると、水産学部の卒業生の評判は極めてよい。就

生が、私達の学祖です。先生は必ずや卒業生諸君の行く方を温く見守っていて下さると思います。

四周海にとり囲まれた我が国の水産を担う三水会の会員諸賢の一層のご健闘を祈って己みません。

絡がつくし、近況も大体わかる。卒業してしばらくの間は多少不明なところがあっても、実家に電話するとか、友人に聞くなどで、何とか連絡がとれるものであるが、年が経つにつれて、わかりにくくなる。名簿を整備するには世話好きな人がいないとやりにくいものであるが、卒業実験の時の研究室の仲間とか、クラブの仲間とか、いろいろなつながりを利用して、なるべく多くの消息をつかむようにしていただきたい。その気になれば年々名簿も充実してくるものである。

二、縦横左右の連絡を

よくとること

卒業生諸君の職場は極めて範囲が広いようであるが、まとめてみると、それ程種類が多いものではない。官公庁、食品、薬品、化学工業などと分けてみると、卒業生諸君の一番多く行っているところは食品関係である。食品はいうまでもなく、原料から一次加工品、二次加工品、惣菜産業、外食産業など、種類も多く、範囲も広い。そして、商品の流通の網はかなり複雑なものである。卒業生諸君の属する会社の商材を相互に流通させることで、新しい営業網が種々生まれるはずである。

同期生の間だけでなく、先輩、後輩の関係なども利用して、仕事の面

での新しいつながりができることを希望する。

たとえば、築地の魚河岸には「三水会」の会員が既に数十名おり、時々会合をもっているときいている。こういう輪が各地にでき、この輪が更にひろがり、この輪が相互に関連するようになることを望んでいる。

三、大学とのつながりを

深めること

卒業した諸君から技術的な問題について電話で問合せることがある。難しい問題で答えられないこともあるが、電話をかけてもらったというだけで、嬉しいものである。お役に立てれば、更に嬉しいのである。三陸の三年間に教えられることは限られている。大学で講義することは大体において基礎的なもので、理論の応用までは時間的に手が廻らない。社会に出てからの方がいろいろと勉強することが多いものである。これは技術的な問題だけではない。経営上の問題もあり、処世上の問題もある。

順調に行っているときにいろいろと知らせてもらうことも楽しいが、物事がうまく行かないときに相談をうけるものも、我々の仕事の一つだと思っっている。

ふらりと大して用もないのに三陸を訪ねてくる卒業生がある。これも



嬉しいものである。ほとんどの諸君がネクタイをしめて、見連えるような姿でやってくる。卒業生諸君が着実に社会に根をおろしているなという感じで誠にたのしい。「子供が生まれた」といって電話をかけてくる人もいる。これもまた嬉しいも

水産学部同窓会(三水会)の発足に当って

前水産学部長 松 浦 文 雄



第一回生諸君が学窓を後に勇躍社会に出ていかれる姿を感激の裡に見送ったのは昭和五十一年春のことでしたが、今春は早くも第五回の卒業生を送って卒業生総数は実に七百十八名を数えるに至りました。これらの諸君が社会の各方面に進出してそれぞれの職域で元気に活躍しておられることは心強い限りです。水産学部にはなお六百数十の在学生諸君が勉学に勤しみ、陸続として先輩諸君の後に続くとしております。水産学部は既に草創期を脱し、愈々輝かしい発展に向けて第二の生長段階に

ので、一日中嬉しくて、研究室にいる学生諸君から「先生、今日は何かいゝことがあったのですか」ときかれたりする。つまり、我々は卒業生諸君から何かと連絡をうけるのが嬉しくもあり、楽しいのである。

入ったと申せましょう。

この時に当って北里大学水産学部同窓会、「三水会」の設立をみたことは意義深く、真にご同慶の至りであります。卒業生諸君一人一人の同窓会結成への熱意が実を結んだもので、生れるべくして生れたものに相違ありませんが、この実現のために凡ゆる努力を傾けて奔走された世話人諸君に心からの敬意を表します。と同時に、この同窓会支部の設立に当って全幅の援助を惜しまれなかった北里大学同窓会の会長はじめ役員の皆様は深甚の謝意を表したいと思えます。

同窓会活動は、申す迄もなく会員相互の懇親を図り、連繫を密にすることを第一義といたします。同窓会は誠に不思議なもので、それが友人同士であれば尚更のこと、いうにいわれぬ深い愛情、友情の絆で結ばれ

ています。それぞれに辿る人生の道は異なっている、また長い歳月を経た後も、語り合えば深く理解し合うことができる間柄であることに驚かされます。これは、人間の内面的な充実を遂げる最も多感な青春時代を同じ学舎に学び、あるいは共に生きたという共通の思い出や連帯感に根差すものでありましょう。自身のことを申しては恐縮ですが、私が今日迄生き存えてくることができたのも偏にこうした友人達、先輩後輩の同窓の人達の支えがあったからこそ感謝の念を新たにしています。同窓の親近感がやがてこのように一般愛にも近いものとなり、相互扶助の精神へと育ってゆくのは極く自然の成り行きのように思われます。

しかし、同窓会が媒介となって真に会員相互の懇親の実を挙げることができれば、その効果は一層大きくなる、というものです。同窓会活動に期待するところ極めて大きいものがあります。

ところで水産学部同窓会に特に希望したいことは、卒業年度を超えたタテの連繫を深めることに殊に工夫を凝らして頂きたいことです。机を並べて一語に学んだ友人達相互の、ヨコの関係が緊密となることは元より大切なことです。同期の桜の連帯感はずと強固なものとあります。

われるからです。こうしてタテ、ヨコ縦横に緊密な連帯の輪を拡げてゆくことができるならば、その輪が持つ力は自ずから強力なものとなって参るでありましょう。かくして始めて、規約第二条に掲げられた「会員の社会的発展」と「北里大学水産学部の発展への寄与」が可能となるように思われます。同窓会の発展がやがて学部、大学の発展につながる日の近いことを確信いたします。と同時に、大学の発展はまた同窓会の発展につながることを思うとき、私達も私達の職場、水産学部を守って最善を尽す覚悟を新たにしたいと思えます。

「三水会」の名称には、このような卒業生、在学生、教職員を打って一丸とする三位一体の協力共同の理想を達成したいという願いがこめられていると考えます。この愛称が早く会員の皆様に親しまれ、合言葉ともなることを冀う次第です。

終りに三水会の発展と、会員の皆様のご健勝を切にお祈りいたします。

会報の発刊に寄せて

北里大学同窓会会長 柴 忠 義



北里大学の学部の中で、最も設立の新しい水産学部が、学部同窓会を中心に、会報の発刊を企画している事を知り、又、他学部の学部同窓会の活動状況を聞くにつけても、連合の同窓会のもとで、各学部同窓会がそれぞれ自主的な胎動を始めつつある事が感じられます。

学部同窓会活動については、各学部が、その特異性を活した計画を立案しているわけですが、特に、水産学部、獣医畜産学部の役員の方々は、東北地区と、東京という二つの拠点に分かれて活動を推進しなければならぬので、その苦勞も大変な事であると推察します。水産学部も設立後、まもなく十年目をむかえようとしているわけですが、今後とも卒業生だけではなく、教職員の方々、在校生が一体となって、学部及びに学部同窓会の発展のために役員の方々を支えて下さる事をこの紙面を借り

て、お願いいたします。

さて、五学部の連合の同窓会も、本年五月の総会から、新体制で第二期目をむかえました。前期三年の、各学部間の調整の時期を過ぎて、本年からは、同窓会として主体性のある事業を起す事も計画しております。そのため、同窓会を一つの組織として法人化する事も考えられております。事業計画に関しては正会員だけではなく、北里大学全体に寄与出来る事業を考え、企画担当の役員も含め、各学部の代表の人々から成る「将来計画委員会」を組織し、実りある意見を諮問していただく事も考えております。一方、学部同窓会に對して、もう一つの柱である地方支部に關しては、現在、六支部が設置され、活動しておりますが、今後は、もっと多くの新しい支部の設立と、育成をめざしております。特に東北地区においては、水産学部、獣医畜産学部の会員の方々の協力が必要と思われまゝ。学部間の枠を越えた、問題の解決や、会員相互の懇親のためにも、新しい地方支部の設立に對し、会員の方々の協力と努力を期待いたします。

又、明年は三年に一度の同窓会

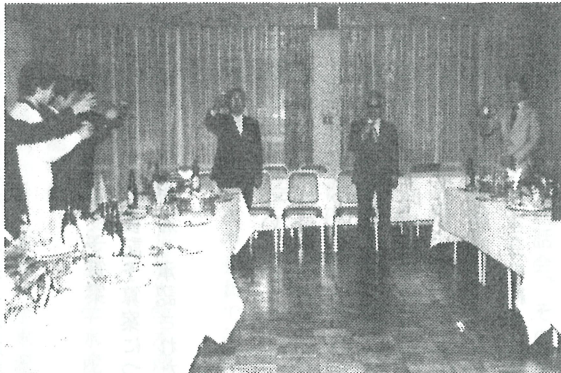
名簿発刊の年に當り、現在、会員全員の必要事項のコンピュータ化を検討して、充実した名簿が明年中には、発刊される予定となっております。

「昭和五十五年度

北里大学水産学部同窓会総会」

昭和五十五年度、北里大学水産学部同窓会総会が、五月三十一日(土)、東大学士会別館に於て、開催されました。

総会には、同窓会活動をおしす



いよいよ、水産学部においても本格的な学部同窓会の出発になりましたが、特にその活動は卒業生だけではなく、学部全体に反映される活動であってほしいと念じております。

めてきた代議員、会員ら二十三名

(うち委任状九名)が出席した。田村治代議員(二期増殖)の開会の辭に續いて、議長に横堀昌道(二期増殖)、副議長に玉沢多賀子(二期食品)、両氏が選出され、次の事項について審議決定されました。

- 一、経過報告
- 二、同窓会名称の決定
- 三、規約の承認
- 四、役員の選出
- 五、昭和五十五年度事業計画
- 六、昭和五十五年度予算案
- 七、その他

引き続き、同会場に於て、松浦学部長、太田食品学科長、そして全学同窓会より岡本理事長、長原会長代理の参加のもと、会員ならびに役員との親睦を深めるため茶話会が行なわれた。

「議事録」

一、経過報告

長屋代議員から設立に到るまでの経過が報告された。

二、同窓会名称の決定

代議員らにより選抜された、いくつかの名称のうち、審議の後、挙手にて選出した。その結果本学部同窓会名称は、「三水会」と決定された。

三、規約の承認

大野代議員（一期増殖）より、代議員等で作成された規約草案の説明がされた。その後、質議応答の後承認された。

また、第二章会員第六条の名誉会長及び顧問について質問があり、名誉会長に現学部長、顧問に前学部長という事に決定された。

四、役員を選出

規約第三章第七条および第九条により理事の選出が行なわれた。立候補した代議員について挙手にて賛否をとったが異議なしとして左記のように決定された。

大野 良樹（一期・増）
其阿弥喜嗣（〃）
長屋 信博（〃）
宮川 忠彦（一期・食）
田代 茂年（二期・増）
田中 和良（〃）
田村 治（〃）

監事

前田 利光（二期・食）
関口 敬二（三期・増）
田中 信介（〃）
村上 益男（〃）
山崎 一法（三期・食）
平井 美華（四期・増）
小宮 山克尚（〃・食）
横山 茂（〃）

佐々木英生（一期・食）
長阪基記（二期・食）



五、昭和五十五年度事業計画
其阿弥理事より、後記の事業計画について説明がなされた。若干の質

疑応答が行なわれ、それぞれ承認された。

六、昭和五十五年度予算案

其阿弥理事より後記予算案について説明がされ原案通り承認された。

七、その他

。終身会費について

本会の会費は終身会費とし、一〇七期生については五千円を徴収する。また七期生以降については、入学時に全学同窓会に納入した会費のうちより本会に還元される部会助成費（一人一万円）をもって本会の終身会費とする。

五十五年度事業計画

一、会報発行

同窓生の動向、学部の現況などを年一〇二回印刷物として発行する。

尚、水産学部同窓生名簿を年一回会報とともに送付する。

二、同窓会名簿の配布

大学同窓会名簿を五十五年度は第一期生に配布する。

尚、次年度以降も卒業五年後の同窓生に配布する。

三、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部四年次生に対し、三陸校舎にて行なう。

四、学友会助成

クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

五、同期会等の助成

同期会等の費用の一部を助成する。

昭和55年度水産学部同窓会予算案

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
1. 事 業 費			1. 会 費		
1) 会 報 発 行 費	200,000		1～5期生終身会費	3,630,000	
2) 同窓会名簿配布費	200,000		2. 部 会 助 成 費	1,600,000	
3) 就職ガイダンス費用	150,000				
4) 学友会助成費	300,000				
5) 同期会等助成費	100,000				
2. 運 営 費					
1) 印 刷 通 信 費	100,000				
2) 会 議 費	150,000				
3) 総 会 費	300,000				
4) 事 務 費	100,000				
5) 準備委員会費	150,000				
6) 予 備 費	3,480,000				
合 計	5,230,000		合 計	5,230,000	

北里大学水産学部同窓会規約

第一章 総 則

第一条（名称） 本会は北里大学三水会と称する。

第二条（目的） 本会は会員相互の親睦を図り、会員の社会的発展に資し、併せて北里大学水産学部の発展に寄与することを目的とする。

第三条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行なう。

一、会報の発行
二、講演会、談話会、その他の集会

三、その他前条の目的を達成するために必要な事業

第四条 本会は、事務局を岩手県気仙郡三陸町越喜来字烏頭 北里大学水産学部に置く。

第二章 会 員

第五条 本会は、次の会員で組織する。

一、正会員 北里大学水産学部卒業生

二、准会員 北里大学水産学部学生

三、特別会員 北里大学水産学部教職員および理事会

が推薦した旧教職員並びに大学院修了者

四、賛助会員 本会の主旨に賛成し理事会の承認を得た者

五、名誉会員 本会および学部の発展に寄与したもので理事会が推薦し、総会で承認された者

第六条 本会に名誉会長および顧問をおくことができる。名誉会長および顧問は理事会の議を経て総会で推挙する。

第三章 役 員

第七条 本会に次の役員を置く。

理事 十五～二十名
監事 二名

理事のうち一名を会長、二名を副会長、若干名を常任理事とする。

第八条 会長は本会を代表し、会務を統理する。

副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

理事は理事会を組織して会務の運営にあたる。常任理事は常任理事会を組織し会務を分掌し

て事業の執行にあたる。

理事は会計および事業の監査を行なう。

第九条 役員の選出は次の方法による。

一、理事及び監事は代議員の中からより互選する。

二、会長、副会長および常任理事は、理事会で互選する。

第十条 役員の任期は三年とし再任を妨げない。

第十一条 本会に職員を置くことができる。

第四章 会 計

第十二条 会員は、会費を納めるものとする。

その金額および納入方法については別に定める。

第十三条 本会の会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日終る。

第五章 会 議

第十四条 会議は定期総会、臨時総会、理事会および常任理事会とする。

第十五条 定期総会は、毎年一回会長が招集する。

臨時総会、理事会および常任理事会は必要に応じて会長が招集する。

ただし、役員または代議員の三分の一以上の要求があった場合は、会長は速やかにこれを招集しなければならない。

第十六条 総会は、次の事項について審議する。

一、役員および代議員の選任

二、事業計画および事業報告

三、収支予算および決算

四、その他理事会が付議することとを適当と認めた事項

第十七条 総会の構成および運営は次のごとくする。

一、総会は役員および代議員を以て構成する。

ただし、会員は出席して意見を述べることができる。

二、代議員の選出細則は別に定める。

三、総会の開催は、役員および代議員の総数の三分の一以上の出席を必要とする。

四、総会の議長団は構成員より選出する。

五、総会の議決は、出席者の過半数による。ただし、可否同数のときは議長が決する。なお、規約の変更は別章に定められた方法によるものとする。

六、役員および代議員は書面をもって議決権の行使を他の出席役員又は代議員に委任する

ことができる。

七、特に緊急を要するときは役員および代議員の書面審議で総会に代えることができる。

第十八条 理事会は会長、副会長、理事を以て構成し、常任理事

会は会長、副会長、常任理事を以て構成する。

理事会および常任理事会の開催は、その構成員の三分の一以上の出席を必要とする。

理事会または常任理事会に出席できない理事は、書面をもって他の理事にその権限を委任することができる。

理事会および常任理事会の議決は、出席者の過半数による。

第十九条 理事会は次の事項を議決する。

一、総会の議案に関する事項

二、本会の運営上必要な細則制定に関する事項

三、その他会務運営上重要な事項

第二十條 常任理事会は会務執行上必要な事項について議決する。

第二十一条 規約の変更は、理事会の議を経てこれを発議し、総会における出席者の三分の二以上の同意を要する。

第六章 改 正

第七章 付 則

第二十二條 本規約は、昭和五十五年五月三十一日から施行する。



学部 の 近 況

二期生 坪川 允

(北里大学大学院水産学
研究科博士課程)

今年はここ二、三年になくイカが好漁とあって、久々に校舎の背景は毎夜、漁火でにぎわっています。白々とした夜空は、六月以来の長雨と相まって久しく満天の星空を見せてくれないのが少々、残念です。

わずかに学生気質に違いは感じられますが、すでに五回卒業生を送り出した今も、水産学部では変わらぬ「青春」の場が引き継がれています。個々様々に、学生の心の中にいろいろな経験と共に産まれる喜びや悲しみといった感情や思索が三陸の自然の中で増幅され、焼き付いてゆくようです。

少々きびしくなった学生指導(?)にもかかわらず新しく三陸にやってくる学生はいずれも三陸生活をそれなりに楽しんでるようです。各クラ

ブは人数不足という問題が相変わらずあるものの活発に活動しています。現在、続けられている体育祭、文化祭(大漁踊り)、ナイトラリー、オーブンヨット・ハイク・スキー・オリエンテーリング等々の他、学生生活に潤いを与える行事、活動が更に増えてゆくよう期待します。文化会も初の会報発行に意欲を燃やしているようです。

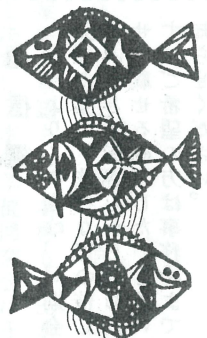
学生の話の中には、すでに幾人かの同窓生がクラブや下宿に纏る、伝説の人として登場してくるようになりました。様々な行事や武勇伝の中に、水産学部の歴史が、学生生活の中にも築かれつつあることがうかがわれます。

恵まれた自然の中で、半面、しっぺ返しもあるようです。大学では、数年、土砂崩れが続いた後、一昨年は宮城沖地震、昨年は稀にみる強風による大きな災害が相継ぎました。その都度、手早く修復され、キズ跡もほとんどありませんが、何事もなく今年の夏が過ぎてゆく中で胸をなでおろしておられる先生方が多いことと思います。災害の修復もさることながら校内の各施設も年毎に充備されつつあります。図書館の完成後、各研究室のスペースがそれぞれ、若干増え、研究室内の設備も一期生の卒論研究当時とは比べようもなくな

っています。「こんなのがなくて、昔(?)はどんな実験をやっていたんですか?」という質問が四年生から聞かれるようになりました。研究内容の進展を話すと共に、「何もない中で、苦勞した先生や先輩達の研究成果が新たな研究目標や、設備を産んでいった。」という答えが一番のようです。

研究活動の進展とともに、地の利を活かしたユニークな成果が、度々、新聞紙上等をにぎわしています。北里大学水産学部の名を広めるとともに、全国に居る同窓生になつかしさと心強さを感じさせているのではないのでしょうか。

三陸に残り、気付くことは、実に多くの同窓生が訪れてくれるということです。観光地であることに加えて、三年間の学生生活が如何に大きく胸に息づいているかのあらわれのように思えます。変わることはない三陸の景観と歩を進める水産学部の有様とがいつまでも、訪れる同窓生に感慨と新たな想いを与えてくれるでしょう。



「三水会」の由来

まず、三水会の「三」という文字は、水産学部のある三陸町を表わし、また同窓生(卒業生)在学生、そして教職員の三者を示しており、この三者のつながりをも示している。次に「水」という文字はもちろん水産学部であることを表わす。そしてまた、水は、どこにでもどのような細いところへも広がってゆく発展性を表わしているのであります。

つまり、三水会とは、三陸の北里大学水産学部を表わしているだけでなく、同窓生、在学生、教職員の三者のつながりと、その輪のひろがりを見せているということなのです。

代議員名簿

5	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	期
村上千鶴子	木村 恒	島田久美子	神取政司	森 一	木村公三郎	平井美華	高木雅宏	村上益男	田中信介	関口敬二	鈴木英之	横堀昌道	田村 治	田中和良	田代茂年	長屋信博	坂本 晋	其阿弥喜嗣	大野良樹	増 殖
5	5	5	5	4	4	4	4		3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	期
名雲英人	武部 道和	水野幸司	龍澤直樹	横山 茂	山田則隆	谷山二朗	小宮山克尚		藤森年三	山崎一法	岡部賢一	前田利光	長阪基記	坪川 允	玉沢多賀子	山口 晃	宮川忠彦	佐々木英生	石川義行	食 品

理事名簿および担当

会 長 長屋信博（一期増殖）
副会長 大野良樹（一期増殖）
田代茂年（二期増殖）

常任理事

其阿弥喜嗣（一期増殖）
田中和良（二期増殖）
田村 治（二期増殖）
村上益男（三期増殖）
小宮山克尚（四期食品）

監 事

佐々木英生（一期食品）
長阪基記（二期食品）

理事（一五名）

総括担当

長屋信博（一期・増）
大野良樹（〃）

庶務担当

田村 治（二期・増）
前田利光（〃・食）
山崎一法（三期・食）

事業担当

宮川忠彦（一期・食）
田中信介（三期・増）
小宮山克尚（四期・食）
横山 茂（〃）

会計担当

田中和良（二期・増）
平井美華（四期・増）

名簿担当

村上益男（三期・増）
其阿弥喜嗣（一期・増）

会報担当

田代茂年（二期・増）
関口敬二（三期・増）

本学同窓会担当

其阿弥喜嗣（一期・増）

会費納入のお願い

本会の運営は、七期生以降の終身会費である、全学同窓会から還元される部会助成費と会員の皆さんから支払われる終身会費をもってなされます。

私たち世話人一同は、集まった会費を有効に活用し、本会をより充実したものにしようと考えておりますが、会員の皆さんからの終身会費に期待するところ大です。

どうか本会の趣旨にご賛同のうえ、同封いたしました振込用紙により、終身会費を納入していただきますようお願いいたします。



編集後記

暑さを忘れた夏も去り、秋の気配がぐっと深まって来たこの頃ですが、皆様いかがお過ごしでありましょうか？我が水産学部同窓会も「三水会」という名の下によりやく活動を開始いたしました。その活動のひとつとして、会報誌の発行があり、とにかく形として残され、後々引き継がれてゆくものですから一同非常に緊張して製作にとりかかったのです。今回は第一号という事もあり、多少、カタい内容となりましたが、満足のゆくものであると一方向的に思っております。また、今回については、長木学長、太田学部長、松浦前学部長はじめ多くの方々の御協力をいただき大変感謝しております。

ありがとうございます。
今後、この会報誌を、形にこだわらない、楽しくハッピーなものにして長く皆様に愛されるようにしていきたいと思っております。皆様からの御意見、御希望をお待ちしています。

通信欄

次号よりこの欄は、同期会の開催の案内、旅行などの催しの案内など、皆さんからのお知らせを載せる欄としたいと思います。ご希望の方は事務局までお知らせください。